令和５年度　　授業改善を図るための各教科の取組　　志木市立宗岡小学校

教科領域等	具体的な指導	具体的な評価方法	評価
国　語	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・伝え合う時間の確保 ・学習過程の工夫 ・語彙力の向上のための繰り返し練習 ・自分の考えを書いたり話したりする活動の習慣化 ・音読や読書の習慣化 ・国語辞典、漢字辞典の常用 ・文字の書き方やノート指導 ・学習効果を高めるためのＩＣＴの積極的な活用	・全国・県学力調査県平均 ・市学力調査Ｒ５全国比 80%台→90%台 ・単元テスト 85%	・授業の冒頭で新出漢字を学習する際、その漢字が含まれた例文を必ず確認し、定着を図った。 ・クラスクラウドを活用したことで、児童同士が互いの書いた課題を容易に確認できるようになった。これにより、習熟の低い児童は参考にして課題に取り組みやすくなった。 ・国語辞典・漢字辞典を活用すると共に、タブレットで調べる活動にも取り組んだ。
社　会	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・問題解決学習の工夫 ・学習効果を高めるためのＩＣＴの積極的な活用 ・考えをまとめたり、発表したりする時間の確保 ・体験学習の充実　・資料や情報を読み取る指導の重視	・単元テスト 85%	・課題を設定し、毎時の振り返りの時間を設定することができた。 ・ICT に関してはデジタル版地図帳等を活用することができた。 ・中学年では、副読本に記載されている場所に実際に赴き学習することができた。 ・新聞づくりやスライドを活用したプレゼンに取り組むことができた。
算　数	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・少人数指導やＴＴなど指導形態の充実 ・計算力向上のため繰り返し練習 ・数学的活動の充実 ・学習効果を高めるためのＩＣＴの積極的な活用 ・文章、式、図、表を用いて考える指導の重視 ・考える時間、伝え合う時間の確保 ・学年に応じた補助用教材の作成	・全国・県学力調査県平均 ・市学力調査Ｒ５全国比全領域 90%以上 ・単元テスト 80%	・課題を設定し、毎時の振り返りの時間を実施することができた。 ・ＴＴや保護者支援を活用し、基礎力の向上をはかった。 ・デジタル教科書やエアドロップ、クラスクラウドなどの ICT を活用し、理解が深まる授業の工夫や児童同士の意見の伝え合いを行った。 ・スマート教員と協力して児童の実態に合った補助教材を作成した。
理　科	・本時の課題とまとめの明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・実験・観察の時間の確保 ・自分の考えを文章や図表にまとめることの重視 ・予想、結果、まとめ等での意見交換、方法の工夫 ・学習効果を高めるためのＩＣＴの積極的な活用	・単元テスト 80% ・ノート ・交流タイムや実験での技能	・単元テストは４・５・６年で平均８０点到達率が９６．８%だった。ポイントを押さえた授業を行い、復習ドリルも指定し提出率を担任と協力して 100%に近づけた。 ・「第一仮説→発表→ディスカッション→最終仮説」を自分の言葉で書いて発表す流れを何度も行い、思考解決型学習の時間を十分に取った。 ・協力して安全に実験ができる環境を整え、予備実験を怠らなかった。特に定性的な結果が出る実験ではタブレット端末を使って記録させたり、クラスクラウドの部屋に画像を入れて他の班との比較ができるようしたりし、より妥当な考えを導き出せる工夫を行った。
生　活	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・科学的な思考につながる指導の工夫 ・友だちとの関わり合いや高め合いの活動の工夫	・活動の様子 ・ワークシート	・単元の目標を明確化し、ゴールを児童に明示したことにより、見通しをもって学習に取り組めるようにした。 ・グループ活動を積極的に取り入れ、児童同士の学び合いにより、活発な授業が展

	・繰り返しの体験活動（気づき）の充実		開できた。 ・iPad の写真機能を活用し、観察、比較がわかりやすく行えた。
音　楽	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・歌唱・器楽、音楽づくりの指導の重視 ・曲想やその変化を感じ取る鑑賞の指導の工夫 ・感じ取ったことを言葉で表現する指導	・技能の習得 85% ・活動の様子 ・ワークシート	・課題の明確化をして授業を実践できたが、実態に応じたよりよい課題設定が必要と感じた。 ・見通しをもてるように、さらに掲示の充実を図った。 ・感じ取った言葉を表現する活動を増やすことができた。 ・音楽朝会等、発表の場の充実により、技能の能力が向上した。
図　工	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・創造活動における個に応じた指導の重視 ・作品紹介や鑑賞、話合いの視点の明確化 ・評価や励ましの言葉の工夫	・活動の様子 ・作品カード ・鑑賞カード	・課題を明確にすることで、児童のやりたいという気持ちを高められた。 ・振り返りを行うことで、次時の見通しを主体的に持つことができた。 ・活動中は、児童との対話を大切にした。 ・すべての児童に、作品の良いところを話し、自信を持たせるようにした。
家　庭	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・生活経験や発想を大切にした学習過程 ・家族、家庭生活における課題発見と実践 ・体験的な学習活動の重視 ・言葉や図表を使って生活をよりよくする方法を表現させる活動	・技能の習得 85% ・単元テスト 85% ・ワークシート ・作品カード	・単元の終了時点でできるようになっている姿を児童に想像させ、見通しをもって学習に取り組めるようにした。 ・実習以外の単元でも実験を取り入れた。 ・単元テストは、８５%以上をクリアできたが、五大栄養素の知識など、個人差が大きいものもできてしまった。 ・単元の最後は自分の生活に還元させ、「よりよい生活のしかた」を考えさせた。
体　育	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・学習カードや ICT を効果的に活用した授業実践 ・資質・能力の三つの柱をバランス良く育むことのできる授業実践 ・体力や調整力を高める業前運動	・活動の様子 ・学習カード ・ICT ・新体力テスト ・運動習慣等調査	・単元ごとの見通しをたて、一時間ごとに課題を明確にし、課題に正対した振り返りを行った。 ・昨年度の新体力テスト結果を振り返り、今年度の目標を立て、体力テストに取り組んだ。 ・クラスクラウドなどの ICT を活用し、理解が深まる授業の工夫や児童同士の意見の伝え合いを行った。
外国語	・本時の課題の明確化 ・見通しと振り返りのある授業実践 ・言葉のおもしろさや豊かさに気付かせる学習過程の重視 ・コミュニケーションの喜びを味わわせる活動の工夫 ・外国の文化を理解し深め合う時間の確保	・活動の様子 ・単元テスト ・パフォーマンステスト（会話・発表） ・ふり返りシート ・ワークシート	・言語活動の際、目的や場面を設定し、相手意識をもたせた。また動画を撮って客観的に自分の発表を見ることで児童が学習を調整できるよう工夫した。 ・単元の始めに「単元末にできるようになってほしいこと」を全体で確認し、見通しをもって学習できるようにした。また単元ごとの振り返りを共有した。iPad を使い、児童がいつでも見返せるようにした。
道　徳	・自我関与を促す指導方法の工夫 ・多面的・多角的な道徳的価値の理解を促す言語活動 ・児童の発達や個に応じた指導の工夫 ・問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導の実践	・活動の様子 ・ワークシート ・指導と評価の一体化 ・指導法の工夫	・視聴覚資料やアンケート等を通して、自我関与を深める導入・展開を工夫した。 ・ICT 端末を活用し、自分の考えを可視化したり、友達の考えを共有したりして、道徳的価値の理解を促した。 ・役割演技やペープサート、実物提示などで、場面や心情の理解を助けた。

総　合	・資料や情報を読み取り、まとめる学習過程の工夫 ・相手に分かりやすく発表させることを重視した指導の実践 ・課題に適した資料や情報を収集するための指導の重視 ・小中一貫教育における「むねおか学」を意識した教育課程の作成	・活動の様子 ・ワークシート	・GIGA 端末を活用し、スライドやパワーポイント、クラスクラウド等の各種アプリを用いて、ポートフォリオによる学びの成果の蓄積や発表資料の作成を行うことができた。 ・むねおか学について学校区（宗小・宗三小・宗二中）で共通理解を図り、小中一貫の教育課程を作成することができた。
特　活	・望ましい人間関係を育てるための議題の設定 ・必要感や目的意識のある、話合い活動の工夫 ・自分の考えを発表し、相手の考えを受け入れる態度の育成	・活動の様子	・年間指導計画に議題例を挙げたり、各クラスでポストやタブレットなどで児童から議題を出させる工夫をしたりした。 ・学級会ノートを活用して児童が話合いに積極的に参加できるようにした。話合いでは、めあてを常に意識させて、反対意見が出てもこうしたらできるのではないかと考えて話合いができるようになってきた。